シラバス参照

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT4611		
科目名	危機管理特殊研究１		
担当教員	美濃輪　正行		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水４		
講義室	1304	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	演習・ゼミナール等		
科目小分類	-		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 ＤＰ１－Ｅ　［学識・専門技能］専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 ＤＰ４－Ｆ　［探究力・課題解決力］問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 ＤＰ３－Ｈ　［論理的思考力］理論整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 ＤＰ４－Ｉ　［理解力・分析力］文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 CP1-E1　学識・専門技能　学識と専門技能（２０％） CP4-F2　課題解決（２０％） CP3-H1　論理的思考（２０％） CP4-I1　理解・分析と読解（２０％） CP4-I3　情報分析（２０％）		
教員の実務経験	担当教員は、当大学着任前に情報サービスを提供する民間企業で勤務しておりました。本講義で取り扱う内容は、情報システムの知見を深めるために必要とされるものです。情報システムに関する知見は広範囲に亘っており，技術的な知識の理解に留まることなく、包括的な視点からの考察が求められます。担当教員は情報サービスを直接提供する立場でシステム構築や運用管理等で様々な経験を積んでおり、これらの実務経験を積極的に講義に取り込んでいく所存です。(第２～４，１１回)		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応 ３発展期 ～４定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。これによって、学生自身がキャリア形成にもつながるように危機管理とITに関する興味を喚起して、専門的な研究を自主的に進めます。教員は自らの実務経験に基づいたいくつかのテーマを設定し、 学生が自らのキャリア形成に役立つと考えるテーマを選択、理解を深めます。情報技術に関する知識や教養を養うことに加えて、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、危機管理に関する実務についての知識を習得するための基礎的な指導を行います。授業形態は講義及び演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		

<table>
<tr><td></td><td>（キーワード）
情報セキュリティ、Disaster Recovery、Big Data、AI、サイバー攻撃、サイバー犯罪</td></tr>
<tr><td>授業の趣旨</td><td>■副題
危機管理から考える企業の情報技術活用のあるべき姿
■授業の目的
近年、人工知能、先端医療、宇宙工学等の最新技術によって社会や企業は大きく変わりつつあり、その潮流は留まることを知りません。中でも情報技術に関する分野の影響は大きく、人工知能に端を発する労働問題、情報システムに過依存な状況での大規模災害時の対処、データ活用による分析・知識ベース化によるビジネスモデルの変革、巧妙に進化を遂げるサイバー攻撃など、課題は多く存在します。本科目では、災害対策、最新技術、情報セキュリティの観点で、基本となる知識を整理して、危機管理の視点から課題意識を醸成し、更に公企業・私企業の組織で情報技術活用の最適化と何かということを考える端緒となることを目指します。
■授業のポイント
情報技術の領域は広範囲であり、特定分野を深く理解したとしてもそれが企業が求める見識とは異なることが考えられます。本科目では、危機管理の視点から災害対策、ビッグデータ、AI、IoT等の最新技術、情報セキュリティに分類して、具体例を交えて各々の技術分野を俯瞰します。限定された分野であれば独習が有効ですが、限られた期間で複数分野について効果的に知識が習得できるよう授業を構成します。</td></tr>
<tr><td>総合到達目標</td><td>■ 実社会で様々な危機に対峙するために，ITの技術分野で危機管理に関して適切な問題意識を持つことができるようになる。
■ 個別の目標は次の通り。
・講義で取り上げる ①DR（大規模災害対応）、②最新技術（Big Data、IoT、AI）、③情報セキュリティのいずれかの分野で自らの興味の対象を定める。
・いずれかの分野で各自が問題意識を持ち，問題を定義する。
・問題に関する背景、経緯、因果関係を調査・考察する。
■ 履修内容によって様々な分野に適用できるような汎用的な理解力を目指す。
■ 成果物は後期に連続する特殊研究２の研究レポートの骨子とする。</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td>■ 研究レポート構想計画書（７０%）：適用ルーブリック　Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３
（評価の観点）
＊ 講義中に説明した各技術分野の基本的なレベルの内容について、理解の深度を検証します。
＊ 危機管理特殊研究２の研究レポート執筆の概要について、目次レベルの素案を確認します。
（フィードバックの方法）
＊ 講義中に解答例を提示して、採点結果を公開します。
＊ 成果物を確認して、各学生に個人指導を行います。
■ 授業参加度（３０%）：適用ルーブリック　Ｃ１・Ｆ２
（評価の観点）
講義中の設問に対して解答を記述して講義後に提出します。提出頻度、解答内容について評価します。
（フィードバックの方法）
提出物に対してコメントし、出欠情報としてポータルシステムに公開します。</td></tr>
<tr><td>履修条件</td><td>「情報システム論」の知識や手法を理解していることが望まれます。未履修の学生は教材を使ってこれらの知識を修得すること。</td></tr>
<tr><td>履修上の注意点</td><td>個人所有のPCを活用することによって理解を深めることが期待できます。可能な場合は是非準備してください。</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td>
<table>
<tr><th>回</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>①授業テーマ
オリエンテーション（説明・ディスカッション）
②授業概要
ガイダンスとして講義の方針と目的、講義の構成、評価方法について説明します。受講生はＩＴに関わる企業の分類についてディスカッションすることによって、本コースの前提となる知識を習得します。(Ｉ１)
③予習（240分）
情報システム論の講義資料を精読すること。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>①授業テーマ
ITの基礎知識
②授業概要
実践的問題に触れる前に必要となる初歩的なITの語彙、情報処理の種類等について、担当教員の実務経験を踏まえて、解説します。３回目以降の前提知識です。受講生は本講義によって自らのITに関する理解度を確認して、IT関連の職業について概要を把握し</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

	ます。(Ｉ１・Ｅ１・Ｈ１) ③復習（240分） 　講義中の設問を再考して、どの様なビジネスがあるか調査すること。
3	①授業テーマ 　システム開発 ②授業概要 　情報システムをライフサイクル、開発に関わる職業、関連する会社組織の観点から、担当者の実務経験を踏まえて、解説します。本講義によって情報システムに関わる業務を説明できるようになります。(Ｅ１・Ｉ１) ③予習（60分） 　IT関連の職業についてどのようなものがあるかインターネットで調べておくこと。 ④復習（180分） 　講義資料を再読して、情報システムのライフサイクルと企業の関係の事例について調べること。
4	①授業テーマ 　データ処理のケーススタディ① ②授業概要 　ビジネス推進にはデータ分析が重要であるが、それらデータの分類，発生から保管までの概要について、担当者の実務経験を踏まえて、解説します。個人情報やプライバシの侵害にも拘わる内容です。講義後は、データ収集及び分析の効果と関連する社会問題について説明できるようになります。(Ｅ１・Ｉ１・Ｉ３) ③予習（240分） 　情報法の教科書またはインターネットで、ビジネスではどのように個人情報が取得・活用されているか調べること。
5	①授業テーマ 　データ処理のケーススタディ② ②授業概要 　コンピュータの内部及びネットワーク上、どの様にデータが処理されているか解説します。講義後はコンピュータからネットワークを通して基本的なデータ処理の流れが説明できるようになります。（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３） ③復習（240分） 　別途配付する資料を精読してファイルシステムの動作について理解を深めること。
6	①授業テーマ 　データ処理のケーススタディ③ ②授業概要 　データベース管理システムからビッグデータの処理の概要について解説します。講義後は、これらの基本的な概念とその事例を挙げられるようになります。（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３） ③復習（240分） 　講義資料を精読して、データベース処理とビックデータ処理の相違について考えを整理すること。
7	①授業テーマ 　ＩｏＴのケーススタディ① ②授業概要 　IoTの概念、歴史的な経緯、事例について取り上げます。受講生は身近な事例を取り上げて考察を深めます。講義後は、IoTの効能について説明できるようになります。（Ｅ１・Ｆ２・Ｉ１・Ｉ３） ③復習（240分） 　IoT 及びそれに類する技術の出現の前後で同様な社会的な影響が発生したか考察すること。
8	①授業テーマ 　ＩｏＴのケーススタディ② ②授業概要 　IoTを構成する秘術について解説します。講義後は、IoTで可能となるサービスについて考察できるようになります。（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１） ③復習（240分） 　講義資料を再読の上、IoT 技術を利用してどの様なサービスが可能となるか考案すること。
9	①授業テーマ 　人工知能のケーススタディ① ②授業概要 　人工知能の基本概念、歴史的な経緯、代表的な事例について解説します。講義後は人

		工知能の基本的な概念を説明できるようになります。　（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３） ③復習（240分） 　講義資料を再読して、人工知能システムとそれ以外の情報システムの相違を整理すること。
	10	①授業テーマ 　人工知能のケーススタディ② ②授業概要 　人工知能のいくつかの実装例について解説します。講義後は現在人工知能がどの様に社会実装され、それがどの様な工程を経て開発されているか説明できるようになります。　（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３） ③復習（240分） 　人工知能システムの事例を取り上げて、そのシステムが何を狙って開発されたか、その効果について調査すること。
	11	①授業テーマ 　IT企業の研究 ②授業概要 　IT業界は多様な業種，職種があるが、採用数が多い割にはその情報が的確に認知されていない。それらを理解することは、IT人材不足の問題の認識、ひいては学生のキャリア選考にも役立つ。担当教員の実務経験を踏まえて、IT企業と業界の概要について解説します。（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１） ③復習（240分） 　講義資料を再読のこと。
	12	①授業テーマ 　情報システムの災害対応① ②授業概要 　担当教員の実務経験を踏まえて、自然災害発生時の企業システムの対応について触れます。基本的な知識として、情報システムの災害対応について基本的な概念を解説します。講義後は現実的な災害対策とはどの様なものか説明できるようになります。（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１） ③予習（120分） 　『情報システム論』の３回目まで及び８回目から１２回目までの講義資料を精読のこと。 ④復習（120分） 　講義資料を再読のこと。
	13	①授業テーマ 　情報システムの災害対応② ②授業概要 　東日本大震災における情報システム対応の事例について説明します。講義後は災害対策にはどのような課題があるか説明できるようになります。（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１） ③復習（240分） 　講義資料を再読のこと。
	14	①授業テーマ 　レポート作成計画書立案オリエンテーション ②授業概要 　レポート作成の準備段階のレポート骨子の作業について解説します。（Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３） ③復習（240分） 　サポート骨子を作成してレポートとして提出すること。
	15	①授業テーマ 　総括 ②授業概要 　作成したレポート骨子について発表し、受講者間で意見を交換します。更に作成した骨子について教員と協議の上、適宜修正します。（Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３） ③復習（240分） 　講義中のコメントや関連する資料を参照することによって、作成したレポート骨子に関する資料を修正すること。
関連科目	情報技術と社会(RMGT1308S)/情報システム論(RMGT3576)、サイバーセキュリティ論(RMGT 3573)、デジタルフォレンジック(RMGT 3577)、情報法(RMGT 3471) 、危機管理特殊講義２（デジタルリスク） (02060024) が関連します。	
教科書	特にありません。講義で使用する資料は教員から提供します。	

参考書・参考ＵＲＬ	講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に公開します。 ■オフィスアワー 火曜５限を予定しています。
研究比率	■ 危機管理四領域との対応 情報セキュリティ：85% 災害マネジメント：5% パブリックセキュリティ：5% グローバルセキュリティ：5% ■ 危機管理と法学との割合 危機管理：95% 法学：5%

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.